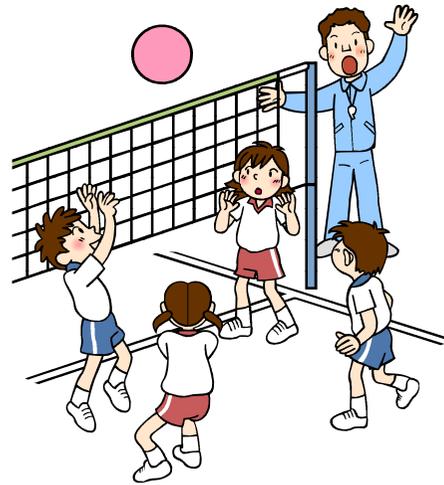


小学校体育科

「単元の評価規準」作成のための

参考資料



鹿児島県総合体育センター

1 本参考資料について

文部科学省国立教育政策研究所発行の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「国研資料」）には、学習指導要領改訂を踏まえた学習評価の改善として、以下のように示してあります。

各教科等の評価については、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と「評定」が学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされている。観点別学習状況の評価とは、学校における児童生徒の学習状況を、複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析する評価のことである。児童生徒が各教科等での学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点到課題が認められるかを明らかにすることにより、具体的な学習や指導の改善に生かすことを可能とするものである。**各学校において目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、観点ごとに評価規準を定める必要がある。評価規準とは、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものである。**

（「国研資料」P 3から抜粋）

このことから、各学校では、「観点別学習状況の評価」を行う上で、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころとして、「評価規準」を作成し学習評価を行うとともに、指導と評価の一体化を図っていく必要があります。

そこで、総合体育センターでは、体育科の授業において学習評価を行うにあたり、児童の学習状況を見取るためのよりどころとなる学習活動レベルに対応した「小学校体育科『単元の評価規準』作成のための参考資料」を作成しました。各学校で体育科の「単元の評価規準」を作成する際の参考にさせていただけると幸いです。

本参考資料の「単元の評価規準（例）」は、「国研資料」を参考に、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」に示されている各領域の例示の語尾を変えるなどして作成してあります。（なお、各学年の冒頭には「目標と評価の観点及びその趣旨」、各領域の冒頭には「内容のまとめりの評価規準（例）」も示してあります。）

以下、各学校で「単元の評価規準」を作成する際の、本参考資料の活用例等について説明します。

2 本参考資料の使い方（例）

本参考資料の「単元の評価規準（例）」は、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」（文部科学省）に2学年ごとに示された各領域の例示の語尾を変えるなどして、児童の学びの姿としてより具体化したものを、以下のように記載しています。
 （例：第3学年及び第4学年「ゲーム（ネット型ゲーム）」）

◇ 単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【ゴール型ゲーム】</p> <p>※ 省略</p> <p>※ 各学年・領域の「単元の評価規準（例）」の上にある「◆」は、学習指導要領解説に例示されている運動や技を記載しています。</p> <p>【ネット型ゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム ◆プレルボールを基にした易しいゲーム ◆バドミントンやテニスを基にした易しいゲーム ◆天大中小など、子供の遊びを基にした易しいゲーム <p>○ネット型ゲームの行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>○いろいろな高さのボールを片手、両手もしくは用具を使ってはじいたり、打ちつけたりすることができる。</p> <p>○相手コートから飛んできたボールを片手、両手もしくは用具を使って相手コートに返球することができる。</p> <p>○ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。</p> <p>【ベースボール型ゲーム】</p> <p>※ 省略</p>	<p>○攻めと守りの局面でプレイヤーの人数に違いを設け、攻めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。</p> <p>○少人数のゲームで、ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。</p> <p>○易しいネット型ゲームで、高さの違うボールを片手、両手もしくは用具を使って強さや方向を変えてはじいた工夫を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p> <p>○易しいベースボール型ゲームで、友達の正面に移動する動きのよさを、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p>	<p>○易しいゴール型ゲーム、ネット型ゲーム、ベースボール型ゲームに進んで取り組もうとしている。</p> <p>○ゲームの規則を守り、誰とも仲よくしようとしている。</p> <p>○ゲームで使用する用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。</p> <p>○ゲームの勝敗を受け入れようとしている。</p> <p>○ゲームやそれらの練習の中で互いに動きを見合ったり、話し合ったりして見つけた動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。</p> <p>○ゲームやそれらの練習の際に、使用する用具などを片付けて場の危険物を取り除くなど、周囲を見て場や用具の安全を確かめている。</p>

これは、3年生と4年生の2年間の「ネット型ゲーム」の「単元の評価規準（例）」です。

学校では、実際の各学年の指導計画をもとに、どちらの学年で何を指導し評価するのかを確認し、「単元の評価規準」を作成することになります。

以下、3年生と4年生の「ネット型ゲーム」で、3年生はプレルボール、4年生はソフトバレーボールを取り扱うと仮定して、「単元の評価規準」を作成する際の、本参考資料の活用方法とその手順について説明します。

① まず、実際の学校の指導計画で、3年生と4年生それぞれの学年で、何を指導するのかを確認します。

② 次に以下のように本参考資料をもとに、3、4年のどちらの学年の「単元の評価規準」とするのか仕分けします。

その際、3年生の評価規準は「○」、4年生の評価規準は「●」、両方の学年に共通する評価規準は「◎」とします。また、「ブレルボール」「ソフトバレーボール」の単元の評価規準として適さない語句等は、取消線で削除したり、修正したりします。
 (なお、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」は、「ゴール型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」を含めたゲーム領域全てに共通するものとなっています。)

※ 各評価規準項目の最初に、「○」がついているので、3年生の評価規準は「○」のまま、4年生の評価規準は「○」を塗りつぶして「●」に、両方の学年に共通する評価規準は「○」の中に小さな「○」を書き込んで「◎」にすれば、以下のように簡単に仕分けできます。

◇ 単元の評価規準 (例) ○ : 3年の評価規準 ● : 4年の評価規準 ◎ : 3・4年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【ゴール型ゲーム】</p> <p>※ 省略</p> <p>ブレルボール・ソフトバレーボール</p> <p>【ネット型ゲーム】</p> <p>◆ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム</p> <p>◆ブレルボールを基にした易しいゲーム</p> <p>◆バドミントンやテニスを基にした易しいゲーム</p> <p>◆大中小など、子供の遊びを基にした易しいゲーム</p> <p>◎ネット型ゲームの行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>○いろいろな高さのボールを片手、両手もしくは用具を使ってはじいたり、打ちつけたりすることができる。</p> <p>●相手コートから飛んできたボールを片手、両手もしくは用具を使って相手コートに返球することができる。</p> <p>◎ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。</p> <p>【ベースボール型ゲーム】</p> <p>※ 省略</p>	<p>◎攻めと守りの局面でプレイヤーの人数に違いを設け、攻めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。</p> <p>●少人数のゲームで、ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。</p> <p>○易しいネット型ゲームで、高さの違うボールを片手、両手もしくは用具を使って強さや方向を変えてはじいた工夫を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p> <p>◎易しいベースボール型ゲームで、友達の正面に移動する動きのよさを、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p>	<p>◎易しいゴール型ゲーム、ネット型ゲーム、ベースボール型ゲームに進んで取り組もうとしている。</p> <p>●ゲームの規則を守り、誰とも仲よくしようとしている。</p> <p>○ゲームで使用する用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。</p> <p>○ゲームの勝敗を受け入れようとしている。</p> <p>●ゲームやそれらの練習の中で互いに動きを見合ったり、話し合ったりして見つけた動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。</p> <p>◎ゲームやそれらの練習の際に、使用する用具などを片付けて場の危険物を取り除くなど、周囲を見て場や用具の安全を確かめている。</p>

注: 図中の手書きの注釈と修正線は、元の資料からの引用です。

- 「ゴール型ゲーム」の「◎」は「○」に塗りつぶされたものとして扱われます。
- 「ネット型ゲーム」の「◎」は「○」に塗りつぶされたものとして扱われます。
- 「ベースボール型ゲーム」の「◎」は「○」に塗りつぶされたものとして扱われます。
- 「思考・判断・表現」欄の「◎」は「○」に塗りつぶされたものとして扱われます。
- 「主体的に学習に取り組む態度」欄の「◎」は「○」に塗りつぶされたものとして扱われます。

これで、3年生と4年生の「ネット型ゲーム」の単元の評価規準は、完成です。
このままでも十分に使えますが、さらに見やすく、使いやすくするには・・・

③ 3年生と4年生それぞれの学年の「ネット型ゲーム」の単元の評価規準を整理して、以下のように表を作成します。

第3学年「ネット型ゲーム」(単元名：プレルボール) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①プレルボールの行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>②いろいろな高さのボールを片手、両手を使ってはじいたり、打ちつけたりすることができる。</p> <p>③ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。</p>	<p>①ラリーが続くようにするための規則を選んでいる。</p> <p>②高さの違うボールを片手、両手を使って強さや方向を変えてはじいた工夫を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p> <p>③ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりする動きのよさを、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p>	<p>①プレルボールに進んで取り組もうとしている。</p> <p>②ゲームで使用する用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。</p> <p>③ゲームの勝敗を受け入れようとしている。</p> <p>④ゲームやそれらの練習の際に、使用する用具などを片付けて場の危険物を取り除くなど、周囲を見て場や用具の安全を確かめている。</p>

第4学年「ネット型ゲーム」(単元名：ソフトバレーボール) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①ソフトバレーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>②ボールを片手、両手を使って相手コートに返球することができる。</p> <p>③ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。</p>	<p>①ラリーが続くようにするための規則を選んでいる。</p> <p>②少人数のゲームで、ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。</p> <p>③ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりする動きのよさを、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p>	<p>①ソフトバレーボールに進んで取り組もうとしている。</p> <p>②ゲームの規則を守り、誰とでも仲よくしようとしている。</p> <p>③ゲームやそれらの練習の中で互いに動きを見合ったり、話し合ったりして見つけた動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。</p> <p>④ゲームやそれらの練習の際に、使用する用具などを片付けて場の危険物を取り除くなど、周囲を見て場や用具の安全を確かめている。</p>

※ このとき、表にあるとおり、各項目の最初に○付き数字を付すと、[4]にある「指導と評価の計画」を作成する際に、使いやすくなります。

別添のExcelファイルの「単元の評価規準作成シート（○・○年）」を活用すると、各学年の単元の評価規準を簡単に整理することができます。
活用の際は、ファイルを開いた際の一番左側のピンク色の見出し「作成手順」をよく読んでください。



※ 本参考資料をそのままコピーするなどして、使用することも可能ですが、運動領域については、各領域の「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準（例）は、運動の種類別（例えば、ボール運動であれば「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」、器械運動であれば「マット運動」「鉄棒運動」「跳び箱運動」）に記載しておらず、領域内で共通するものも含めてまとめてありますので、このExcelファイルの「単元の評価規準作成シート（○・○年）」を活用した方が、簡単に見やすく整理された評価規準の表が作成できます。

このように、本参考資料を活用して単元の評価規準を作成することで、学習状況を見取る際の児童の姿が具体化されるとともに、どの学年で何を指導し、評価するのかを明確にすることもできます。

また、「指導と評価の一体化」を図るために・・・

4 「指導と評価の計画」を作成します。(ここでは、4年生の「ソフトバレーボール」のみ示します。)

第4学年「ネット型ゲーム(単元名:ソフトバレーボール)」指導と評価の計画(例)

時間	1	2	3	4	5	6
0	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・単元のねらいの確認 ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・1時間の流れの確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 <ul style="list-style-type: none"> ○ソフトバレーボールの行い方の確認 ・基本となるルール ・ボール操作 など <ul style="list-style-type: none"> ○試しのゲーム ○課題の確認 	場の準備 → 準備運動(ボール操作やボールを持たないときの動きを高めるための補助運動)				
		<ul style="list-style-type: none"> ○課題の確認 ○チームでの練習① ○ゲーム① ○チームでの練習② ○ゲーム② 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームの課題に応じた練習をする ○チームの特徴を生かした作戦を選ぶ ○作戦タイム ○ゲーム ○ルールの見直し ○作戦の見直し・チームでの練習 	<ul style="list-style-type: none"> ○作戦の確認 ○チームでの練習① ○ゲーム① ○作戦の見直し・チームでの練習② ○ゲーム② 	<ul style="list-style-type: none"> ○対抗戦をしよう ○ルールの確認・見直し ○ゲーム① ○作戦の確認や見直し・チームでの練習 ○ゲーム② 	
4 5	本時のまとめ(学習カードの記入, 振り返り, 成果及び次時の課題の確認)					単元のまとめ
	整理運動, 片付け, 挨拶					
知技	① カード			② 観察・ICT		③ 観察・ICT
思判表			① カード	② カード	③ カード	
態度	① 観察	④ 観察	② 観察・カード		③ 観察	

このように、「指導計画」だけではなく、「評価計画」も示した「指導と評価の計画」を作成することで、いつ、何を指導し、評価するのが明確になります。つまり、各単位時間の学習のゴールにおける目指す子供の姿が、イメージしやすくなります。

上記の「指導と評価の計画」を、改めて作成することが難しい場合は、学校ですでに作成している「指導計画」に で囲った「評価計画」を書き加えるだけでも、「指導と評価の計画」として十分に活用できます。

大切なことは、いつ、何を指導し、指導したことをどのタイミングで、どんな方法で評価するかを明確にし、評価したことを次の指導に生かすかというPDCAサイクルによる「指導と評価の一体化」を図ることです。

3 おわりに

本参考資料にある「単元の評価規準（例）」は、先に述べたとおり「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」に示されている例示をもとに作成しています。例示は、各領域で取り上げることが効果的な指導事項の具体例を重点化して示してあるものです。従って、学校で作成している実際の指導計画と照らし合わせた際、本参考資料をそのまま使用することができない場合もあります。

各学校においては、各領域の各単元で設定する授業時数、取り扱う教材（運動材）、学校や地域及び子供の実態や特性等に応じて、本参考資料をその名のとおり「参考資料」として、各学校の実情に応じた単元の評価規準を作成してください。

なお、本参考資料には、保健領域の「単元の評価規準（例）」も記載してありますが、保健領域については、各学年で指導する内容が定められているため、各評価規準項目の冒頭に○付き数字を付して、そのまま活用できるように作成してあります。

（本参考資料を含めた各種の資料等は、以下の鹿児島県総合体育センターのホームページからダウンロードできます。）

鹿児島県総合体育センターホームページ



www.pref.kagoshima.jp/kikan/taiku/index.html

目的別情報

→資料等（発行物・調査結果）

→指導資料

【参考資料】 : 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（文部科学省国立教育政策研究所）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」（文部科学省）

各学年の評価規準（例）

- 第 1 学年及び第 2 学年 …………… P 9 ～ P16
- 第 3 学年及び第 4 学年 …………… P17～P30
- 第 5 学年及び第 6 学年 …………… P31～P47

【小学校第1学年及び第2学年】

□ 目標と評価の観点及びその趣旨

目 標	(1) 知識及び技能	(2) 思考力, 判断力, 表現力等	(3) 学びに向かう力, 人間性等
	各種の運動遊びの楽しさに触れ, その行い方を知るとともに, 基本的な動きを身に付けるようにする。	各種の運動遊びの行い方を工夫するとともに, 考えたことを他者に伝える力を養う。	各種の運動遊びに進んで取り組み, きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり, 健康・安全に留意したりし, 意欲的に運動をする態度を養う。
観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	各種の運動遊びの行い方について知っているとともに, 基本的な動きを身に付けている。	各種の運動遊びの行い方を工夫しているとともに, 考えたことを他者に伝えている。	各種の運動遊びの楽しさに触れることができるよう, 各種の運動遊びに進んで取り組みようとしている。

□ 評価規準

以下に示す「単元の評価規準(例)」は, 第1学年及び第2学年全てのものであることから, 学校においては, 実際の指導計画をもとに, 指導・評価する時期を確認し, 選別して, 自校の「単元の評価規準」を作成する。

A 体づくりの運動遊び

◇ 内容のまとまりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
次の運動遊びの行い方を知っているとともに, 体を動かす心地よさを味わったり基本的な動きを身に付けたりしている。 ・多様な動きをつくる運動遊びでは, 体のバランスをとる動き, 体を移動する動き, 用具を操作する動き, 力試しの動きをしている。 ※ 「体ほぐしの運動遊び」については, 技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないことから, 技能の観点から削除している。	体をほぐしたり多様な動きをつくったりする遊び方を工夫しているとともに, 考えたことを友達に伝えている。	運動遊びに進んで取り組みようとし, きまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり, 場の安全に気を付けたりしている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【体のバランスをとる運動遊び】 ○体のバランスをとる運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ○片足を軸にして、右回り・左回りに回転したり、跳び上がって回ったりすることができる。 ○立った姿勢からリズムよく跳びながら、右回り・左回りに1/2回転、3/4回転、1回転などをする事ができる。 ○足の裏を合わせて座り、両手で足先を持ち、転がって起きることができる。 ○友達と肩を組んだり背中を合わせたりして、立ったり座ったりすることができる。 ○片足でバランスを保ちながら静止することができる。 ○しゃがんだ姿勢で互いに手を合わせ、相手のバランスを崩したり、相手にバランスを崩されないようにしたりすることができる。</p> <p>【体を移動する運動遊び】 ○体を移動する運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ○大きな円を右回りや左回りに這ったり、歩いたり、走ったりすることができる。 ○横や後ろ、斜めに走ったり、曲線やジグザグ、クランクなどの形態の異なる走路や細い走路を走ったりすることができる。 ○両足や片足でいろいろな跳び方で跳んだり、空中で向きを変えて足から着地したりすることができる。 ○両足または片足で、リズムや方向、高さを変えてはねることができる。 ○無理のない速さでかけ足を2～3分程度続けることができる。</p> <p>【用具を操作する運動遊び】 ○用具を操作する運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ○大きさや重さの異なるボールを両手でつかんで、持ち上げたり、回したり、下ろしたりすることができる。 ○フープを手首や腰を軸にして回したり、倒れないように転がしたりすることができる。 ○ペアで向かい合ったり、的を決めたりして、ボールやフープを真っ直ぐ転がすことができる。 ○長なわでの大波・小波をしたり、回っているなわをくぐり抜けたりすることができる。 ○友達と背中などでボールをはさんで、いろいろな方向に運ぶことができる。 ○ボールや棒など大きさや種類の異なる用具を片手や両手で投げたり、捕ったりすることができる。 ○短なわを揺らしたり、回旋したりしながら前や後ろの連続両足跳びをすることができる。 ○足場の低い易しい竹馬などに乗り、歩くことができる。</p> <p>【力試しの運動遊び】 ○力試しの運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ○すもう遊びで相手を押し出したり、引き合い遊びで引き動かしたりすることができる。 ○なわを引いたり、緩めたりしながら力の出し入れを調整し、力比べをすることができる。 ○友達をいろいろな方向に引きずったり、おんぶをしたりすることができる。 ○腕立て伏臥の姿勢から自己の体を支え、手や足を支点として回ることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の感想や気付きを聞いたり、友達の動きを見たりして、できそうな運動遊びや友達と一緒にしようと楽しい運動遊びを選んでいる。 ○いろいろな種類の用具の中から操作しやすい物を選んだり、楽しく動くことができる場を選んだりしている。 ○体を動かすと気持ちがよいことや汗が出ることなどの気付いたことを言葉で表したり、気持ちを表すカードなどを用いたりして友達に伝えている。 ○友達の動きを見て見付けたよい動きや、行ってみて楽しいと感じた運動遊びの行い方を友達に伝えている。 ○用具を運ぶ運動遊びで、ボールの大きさや種類を変えたり、様々な運び方を試したりして選んだ行い方を、動作を交えながら友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動遊びや多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ○運動遊びをする際に、順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ○運動遊びで使用する用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ○危険物が無いか、友達とぶつからない十分な間隔があるかなどの場の安全に気を付けている。

B 器械・器具を使っの運動遊び

◇ 内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動遊びの行い方を知っているととも、その動きを身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをしてる。 ・マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をしてる。 ・鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての揺れや上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をしてる。 ・跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをしてる。 	<p>器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫してるととも、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしてると。</p>

◇ 単元の評価規準 (例)

○：1年の評価規準

●：2年の評価規準

◎：1・2年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【固定施設を使った運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○固定施設を使った運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしてると。 ○ジャングルジムを使って、登り下り、渡り歩き、逆さの姿勢などをするこがでる。 ○雲梯を使って、懸垂移行や渡り歩きなどをするこがでる。 ○登り棒を使って、登り下りや逆さの姿勢などをするこがでる。 ○肋木を使って、登り下りや懸垂移行、腕立て移動などをするこがでる。 ○平均台を使って、渡り歩きや跳び下りなどをするこがでる。 <p>【マットを使った運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしてると。 ◆ゆりかご、前転がり、後ろ転がり、だるま転がり、丸太転がりなど ○マットに背中や腹をつけて揺れたり、いろいろな方向に転がったりするこがでる。 ◆背支持倒立(首倒立)、うさぎ跳び、かえるの足打ち、かえるの逆立ち、壁登り逆立ち、支持での川跳び、腕立て横跳び越し、ブリッジなど ○手や背中で体を支えてるいろいろな姿勢で逆立ちしたり、移動したり、体を反らしてブリッジをしたり、友達がつくったブリッジをくぐったりするこがでる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの固定施設を使って、ぶら下がったり、逆さの姿勢になったりするなどのいろいろな姿勢をとったり、鬼ごっこやじゃんけんをして登り下りしたりするなど、楽しくでる場や遊び方を選んでる。 ○マットを使った運動遊びでは、坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がるこがでるような場を選んだり、動物に変身して腕で支えながら移動したり、逆さまになたりする運動遊びの中から、動物の動きを選んでる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ぶら下がったり、逆さまになたりするなどのいろいろな姿勢をして遊んだり、動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなど、器械・器具を使っての運動遊びに進んで取り組もうとしてると。 ○器械・器具を使ったいろいろな運動遊びをする際に、順番やきまりを守り、誰とも仲よくしようとしてると。 ○器械・器具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしてると。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【鉄棒を使った運動遊び】</p> <p>○鉄棒を使った運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>◆ふとん干しやこうもり，さる，ぶたの丸焼き</p> <p>○腹や膝，手でぶら下がったり，揺れたりすることができる。</p> <p>◆ツバメ</p> <p>○体を伸ばし手で支えバランスをとって止まることができる。</p> <p>◆跳び上がりや跳び下り</p> <p>○跳び上がって支持して下りたり，支持の姿勢で体を揺らして後ろに跳び下りたりすることができる。</p> <p>◆易しい回転</p> <p>○支持の姿勢から体を丸めて前に回って下りたり，両手でぶら下がって前後に足抜き回りをしたりすることができる。</p> <p>【跳び箱を使った運動遊び】</p> <p>○跳び箱を使った運動遊びの行い方について，言ったり書いたりしている。</p> <p>◆踏み越し跳び</p> <p>○片足で踏み切って跳び箱に跳び乗ったり，ジャンプをして跳び下りたりすることができる。</p> <p>◆支持でまたぎ乗り・またぎ下り</p> <p>○数歩の助走から両足で踏み切り，跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり，またいだ姿勢で手を支点に体重を移動させてまたぎ下りたりすることができる。</p> <p>◆支持で跳び乗り・跳び下り</p> <p>○数歩の助走から両足で踏み切り，跳び箱に両手を着いて両足で跳び乗ったり，ジャンプをして跳び下りたりすることができる。</p> <p>◆馬跳び，タイヤ跳び</p> <p>○両手で支持してまたぎ越すことができる。</p>	<p>○鉄棒を使った運動遊びでは，手や足，腹でぶら下がった姿勢でじゃんけんをしたり，支持して体を揺らして遠くへ跳ぶ競争をしたりするなど，楽しくできる遊び方を選んでいる。</p> <p>○跳び箱を使った運動遊びでは，走って跳び乗った後，手を叩いたり，回ったりして着地するなど，いろいろな着地の仕方を選んでいる。</p> <p>○友達のよい動きを擬態語や擬音語で表現したり，学習カードに書いたりしている。</p>	<p>○転がったり，跳び下りたりするときなどに，危ないものが無いか，近くに人がいないか，マットや跳び箱などの器械・器具が安全に置かれているかなどの場の安全に気を付けている。</p>

C 走・跳の運動遊び

◇ 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動遊びの行い方を知っていると同時に、その動きを身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走の運動遊びでは、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりしている。 ・跳の運動遊びでは、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりしている。 	<p>走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、場の安全に気を付けていたりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：1年の評価規準

●：2年の評価規準

◎：1・2年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【走の運動遊び】 ○走の運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ◆30～40m程度のかげっこ ○いろいろな形状の線上等を真っ直ぐに走ったり、蛇行して走ったりすることができる。 ◆折り返しリレー遊び、低い障害物を用いてのリレー遊び ○相手の手の平にタッチをしたり、バトンの受渡しをしたりして走ることができる。 ○いろいろな間隔に並べられた低い障害物を走り越えることができる。</p> <p>【跳の運動遊び】 ○跳の運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ◆幅跳び遊び ○助走を付けて片足でしっかり地面を蹴って前方に跳ぶことができる。 ◆ケンパー跳び遊び ○片足や両足で、いろいろな間隔に並べられた輪等を連続して前方に跳ぶことができる。 ◆ゴム跳び遊び ○助走を付けて片足でしっかり地面を蹴って上方に跳ぶことができる。 ○片足や両足で連続して上方に跳ぶことができる。</p>	<p>○走の運動遊びでは、直線や曲線、ジグザグなどいろいろな運動遊びの場の中から、自己に適した運動遊びの場を選んでいる。 ○跳の運動遊びでは、前方や上方に跳ぶ高さや距離、間隔など、いろいろな運動遊びの場の中から、自己に適した運動遊びの場を選んでいる。 ○活動後に、感想や動きのポイント、友達のよい動きを書いたり、発表したりしている。</p>	<p>○走の運動遊びや跳の運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ○かけっこやリレー遊びなどを行う際に、順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ○かけっこやリレー遊びなどの勝敗を受け入れようとしている。 ○運動遊びで使用する用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ○走る場所に危険物が無いか、跳ぶ運動遊びをするときに、友達とぶつからない十分な間隔があるかなどの場の安全に気を付けている。</p>

D 水遊び

◇ 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動遊びの行い方を知っていると、その動きを身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の中を移動する運動遊びでは、水につかって歩いたり走ったりしている。 もぐる・浮く運動遊びでは、息を止めたり吐いたりしながら、水にもぐったり浮いたりしている。 	<p>水の中を移動したり、もぐったり浮いたりする簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：1年の評価規準

●：2年の評価規準

◎：1・2年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【水の中を移動する運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の中を移動する運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ◆水につかっての水かけっこ、まねっこ遊び 胸まで水につかって大きく息を吸ったり吐いたりすることができる。 水を手ですくって体のいろいろな部分にかけたり、いろいろな方向に飛ばしたり、友達と水をかけ合ったりすることができる。 水につかっているいろいろな動物（アヒル、カニ、カエル、ワニなど）の真似をしながら歩いたり、腰や膝を伸ばした一直線の姿勢になり手を使って歩いたりすることができる。 ◆水につかっての電車ごっこ、リレー遊び、鬼遊び 水の抵抗や浮力に負けないように、自由に歩いたり走ったり、方向を変えたりすることができる。 手で水をかいたり、足でプールの底を力強く蹴ったりジャンプをしたりしながら速く走ることができる。 <p>【もぐる・浮く運動遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> もぐる・浮く運動遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ◆水中でのじゃんけん、にらめっこ、石拾い、輪くぐりなどもぐる遊び 水に顔をつけたり、もぐって目を開けたりすることができる。 水中で息を止めたり吐いたりしながらもぐる遊びをすることができる。 浮力に負けないように、手や足を使っていろいろな姿勢でもぐるることができる。 ◆くらげ浮き、伏し浮き、大の字浮きなど浮く遊び 壁や補助具につかまったり、友達に支えてもらったりして浮くことができる。 補助具や友達につかまり、体を伸ばした姿勢にして浮いて進むことができる。 息を吸って止め、全身の力を抜いて浮くことができる。 ◆バブリングやボビング 大きく息を吸ってもぐり、水中で息を止めたり吐いたりすることができる。 息を止めてもぐり、口や鼻から少しずつ息を吐きながら水面まで跳び上がって息をまとめて吐いた後、空中ですぐに吸ってまたもぐるることができる。 頭の上に手を挙げながら（膝を曲げて）もぐり、手をさげながら（膝を伸ばして）跳び上がる動きを繰り返すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○動物を選んだり、友達が選んだ動物の動きを取り入れたりしている。 ○拾う石の数や色を決めたり、輪の置き方（縦・横・斜め）や数、輪を沈める深さなどを変えたりするなど、楽しくできる場や遊び方を選んでいる。 ○バブリングでは、水中でのじゃんけんを繰り返したり、水中でいろいろな言葉を伝え合ったりするなど、楽しくできる遊び方を選んでいる。 ○ボビングでは、一緒にする人数を増やしたり、友達と合わせるタイミングを変えたりするなど、楽しくできる遊び方を選んでいる。 ○試した動物の動きや、友達が行った動物のよい動きを伝えている。 ○スムーズに歩いたり走ったりするために、方向や速さを変えるときの手や足の使い方を見付け、友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水につかって動物の真似をしたり鬼遊びをしたり、いろいろな姿勢でもぐったり浮いたりするなど、水遊びに進んで取り組もうとしている。 ○水遊びをする際に、順番やきまりを守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ○水遊びで使用する用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ○準備運動や整理運動をしっかり行う、丁寧にシャワーを浴びる、プールサイドは走らない、プールに飛び込まない、友達とぶつからないように動くなどの水遊びの心得を守っている。 ○水遊びをする前には、体（爪、耳、鼻、頭髪等）を清潔にしている。

E ゲーム

◇ 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動遊びの行い方を知っていると同時に、易しいゲームをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールゲームでは、簡単なボール操作と攻めや守りの動きによって、易しいゲームをしている。 ・鬼遊びでは、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどしている。 	<p>簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりしているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動遊びに進んで取り組もうとし、規則を守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：1年の評価規準

●：2年の評価規準

◎：1・2年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【ボールゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボールゲームの行い方について、言ったり書いたりしている。 ◆的当てゲーム、シュートゲーム、相手コートにボールを投げ入れるゲーム、攻めがボールを手などで打ったり蹴ったりして行うゲーム ○ねらったところに緩やかにボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして、的に当てたり得点したりすることができる。 ○相手コートに緩やかにボールを投げ入れたり、捕ったりすることができる。 ○ボールを捕ったり止めたりすることができる。 ○ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ることができる。 ○ボールを操作できる位置に動くことができる。 <p>【鬼遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鬼遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ◆一人鬼、手つなぎ鬼、子増やし鬼、宝取り鬼、ボール運び鬼 ○相手（鬼）にタッチされたり、マーク（タグやフラッグ）を取られたりしないように、空いている場所を見つけて、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりすることができる。 ○相手（鬼）のいない場所に移動したり、駆け込んだりすることができる。 ○少人数で連携して相手（鬼）をかわしたり、走り抜けたりすることができる。 ○逃げる相手を追いかけてタッチしたり、マーク（タグやフラッグ）を取ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールゲームでは、ゲームの場や規則の中から、楽しくゲームができる場や得点の方法など、自己に適した場や規則を選んでいる。 ○鬼遊びでは、提示された簡単な遊び方や規則の中から、楽しく鬼遊びができる場や得点の方法など、自己に適した遊び方や規則を選んでいる。 ○易しいボールゲームで、ボールを捕ったり止めたりするときに行った工夫を、動作や言葉で友達に伝えている。 ○易しいボールゲームで、ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ることにについて、友達のよい動きを動作や言葉で友達に伝えている。 ○鬼遊びで、少人数で連携して相手（鬼）をかわしたり、走り抜けたりする行い方について、動作や言葉で友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールゲームや鬼遊びに進んで取り組もうとしている。 ○ボールゲームや鬼遊びをする際に、順番や規則を守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ○ボールゲームや鬼遊びの勝敗を受け入れようとしている。 ○ボールゲームや鬼遊びで使用する用具等の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ○ボールゲームや鬼遊びを行う際に、危険物が無いか、安全にゲームができるかなどの場の安全に気を付けている。

F 表現リズム遊び

◇ 内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動遊びの行い方を知っていると同時に、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現遊びでは、身近な題材の特徴を捉え、全身で踊っている。 ・リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊っている。 	<p>身近な題材の特徴を捉えて踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする簡単な踊り方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動遊びに進んで取り組もうとし、誰とでも仲よく踊ろうとしていたり、場の安全に気を付けたりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：1年の評価規準

●：2年の評価規準

◎：1・2年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【表現遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ○いろいろな題材の特徴や様子を具体的な動きでいくつか捉え、跳ぶ、回る、ねじる、這う、素早く走る、高・低の差や速さに変化のある動きなどの全身の動きで即興的に踊ることができる。 ○動きの中に急変する場面を入れて簡単な話にして続けて踊ることができる。 <p>【リズム遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム遊びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ○へそ（体幹部）でリズムに乗って、スキップなどで弾む動きを中心に、ねじる、回る、移動するなどの動きを繰り返して即興的に踊ることができる。 ○友達と向かい合って手をつなぎ、スキップしながら回ったり、ねじったり、手を叩き合ったりして即興的に踊ることができる。 <p>【フォークダンス】※「含めて」指導できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ジェンカ（フィンランド）、キンダーポルカ（ドイツ）、タタロチカ（ロシア）など、軽快なリズムと易しいステップの繰り返して構成される簡単なフォークダンス ○（ジェンカは、前の人の肩に手を置いて列になって踊るところが特徴的な踊り。）軽やかに体を弾ませながら踊ることができる。 ○（キンダーポルカは、易しいステップと指さしの動きが特徴的な踊り。）パートナーと調子を合わせて踊ることができる。 ○（タタロチカは、一重円で軽快な足の動きとかけ声が特徴的な踊り。）大きなかけ声をかけながら軽快に踊ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の特徴的な様子を出し合い、その中から行いたい様子を選んだり、それにふさわしい動きを見付けたり、友達の動きを取り入れたりしている。 ○軽快なリズムの特徴を捉えた動きを選んだり、気に入った動きを見付けたり、友達の動きを取り入れたりしている。 ○題材の特徴を捉えて踊った後に、一番気に入った様子や動きを友達に伝えている。 ○へそ（体幹部）を中心に全身で弾んでリズムに乗っている動き、変化のある動きなど、友達のよい動きについて発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材になりきって踊ったり、軽快なリズムに乗って踊ったりする運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ○表現遊びやリズム遊びに取り組む際に、誰とでも仲よくしようとしている。 ○表現リズム遊びをする場の設定や使った用具の片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ○友達とぶつからないように周りの安全に気を付けて踊っている。

【小学校第3学年及び第4学年】

□ 目標と評価の観点及びその趣旨

	(1) 知識及び技能	(2) 思考力, 判断力, 表現力等	(3) 学びに向かう力, 人間性等
目標	各種の運動の楽しさや喜びに触れ, その行い方及び健康で安全な生活や体の発育・発達について理解するとともに, 基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付け, その解決のための方法や活動を工夫するとともに, 考えたことを他者に伝える力を養う。	各種の運動に進んで取り組み, きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり, 友達の考えを認めたり, 場や用具の安全に留意したりし, 最後まで努力して運動をする態度を養う。また, 健康の大切さに気付き, 自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	各種の運動の行い方について知っているとともに, 基本的な動きや技能を身に付けている。また, 健康で安全な生活や体の発育・発達について理解している。	自己の運動の課題を見付け, その解決のための活動を工夫しているとともに, 考えたことを他者に伝えている。また, 身近な生活における健康の課題を見付け, その解決のための方法を工夫しているとともに, 考えたことを他者に伝えている。	各種の運動の楽しさや喜びに触れることができるよう, 各種の運動に進んで取り組もうとしている。また, 健康の大切さに気付き, 自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。

□ 評価規準

以下に示す「単元の評価規準(例)」は, 第3学年及び第4学年全てのものであることから, 学校においては, 実際の指導計画をもとに, 指導・評価する時期を確認し, 選別して, 自校の「単元の評価規準」を作成する。

A 体づくり運動

◇ 内容のまとまりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を知っているとともに, 体を動かす心地よさを味わったり, 基本的な動きを身に付けたりしている。</p> <p>・多様な動きをつくる運動では, 体のバランスをとる動き, 体を移動する動き, 用具を操作する動き, 力試しの動きをしていて, それらを組み合わせている。</p> <p>※ 「体ほぐしの運動」については, 技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないことから, 技能の観点から削除している。</p>	<p>自己の課題を見付け, その解決のための活動を工夫しているとともに, 考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動に進んで取り組もうとし, きまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり, 友達の考えを認めようとしていたり, 場や用具の安全に気を付けていたりしている。</p>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【体のバランスをとる運動】 ○体のバランスをとる運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ○片足を軸にして、回りながら移動することができる。 ○両足でジャンプをして1/2回転、3/4回転、1回転やそれ以上の回転をすることができる。 ○友達と手をつなぎながら、寝転んだり、転がったり、起きたりすることができる。 ○友達と手をつないだり、背中合わせになったりしながら、片足で立ったり座ったりすることができる。 ○平均台など、少し高さのある器具の上を動物歩きや横歩きなどで渡ることができる。 ○ケンケンしながら相手のバランスを崩したり、バランスを崩されないようにしたりすることができる。 ○グループで円陣になり、バランスを崩し合うゲームを行い、友達のバランスを崩しながら両足で踏ん張ってバランスを保持することができる。</p> <p>【体を移動する運動】 ○体を移動する運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ○物や用具の間を速さ、方向を変えて這ったり、歩いたり、走ったりすることができる。 ○両足で跳び、手足の動作を伴って全身じゃんけんをすることができる。 ○速さやリズムの変化を付けたスキップやギャロップをしてはねることができる。 ○踏切り方や着地の仕方を変えて、いろいろな跳び方をすることができる。 ○ジャングルジムや肋木、登り棒などに登ったり、下りたりすることができる。 ○無理のない速さでかけ足を3～4分程度続けることができる。</p> <p>【用具を操作する運動】 ○用具を操作する運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ○大きさや重さの異なるボールやフープなどの用具を片手でつかんで持ち上げたり、回したり、降ろしたりすることができる。 ○ボールをねらったところに真っ直ぐ転がすことができる。 ○フープを安定して転がし、回転しているフープの中をくぐり抜けたり、片足をに入れてステップを踏んだりすることができる。 ○ボールを両膝や両足首に挟んだり、友達と体で挟んだりして、落とさないように運ぶことができる。</p>	<p>○掲示物等に示された運動の行い方の中から、心も弾み、体の動きが軽快になる運動や、体を動かすと心のつながりを感じる運動の行い方を選んでいる。 ○用具の操作の仕方や行う人数など、より楽しく運動ができ、体の様々な動きを身に付けることができる行い方を選んでいる。 ○基本的な動きを高めるために友達の運動の行い方と自己の行い方とを比べるなどして、自己の課題を見付けている。 ○これまでに行った運動の中から更に行ってみたい運動を選び、人数や用具などの条件を変え、新たな運動の行い方を選んでいる。 ○友達と声を出して動きを合わせるなど、リズムやタイミングを合わせる行い方を選んでいる。 ○友達の行い方の真似をしたりそれを修正したりしながら、自己に適した動き方を選んでいる。 ○これまでの学習で経験した運動の中から選んだ、みんなで行うと楽しくなる運動を友達に紹介している。 ○基本的な動きを身に付けるための運動のポイントや行い方について、友達と考え合う際に、自己の気付きを発表したり、大切だと感じたことを友達に教えたりしている。</p>	<p>○体ほぐしの運動や多様な動きをつくる運動に進んで取り組もうとしている。 ○運動を行う際にきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ○使用する用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ○友達の考えを認めたり、互いの気持ちを尊重し合ったりしようとしている。 ○活動の場の危険物を取り除いたり、用具や活動する場の安全を確かめたりしている。</p>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○相手に向かってボールや輪を投げたり、投げられたボールや輪を手や足で捕ったりすることができる。</p> <p>○紙で作った棒やタオルなど、操作しやすい用具を振ったり、投げたりすることができる。</p> <p>○短なわでの前や後ろの連続片足跳びや交差跳びなどを行うことができる。</p> <p>○長なわでの連続回旋跳びを行うことができる。</p> <p>○補助を受けながら竹馬や一輪車に乗ることができる。</p> <p>○座ったり弾んだりできる大きなボールに乗って、軽く弾んだり転がったりすることができる。</p> <p>【力試しの運動】</p> <p>○力試しの運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>○押し合いずもうで、重心を低くして相手を押したり、相手から押されないように踏ん張ったりすることができる。</p> <p>○重心を低くして相手を引っ張ることができる。</p> <p>○人数を変えて綱引きを行うことができる。</p> <p>○友達をおんぶし、力の入れ方を加減しながら安定して運ぶことができる。</p> <p>○手押し車などにより、両腕で体重を支えながら移動したり、相手の様子を見ながら支えたりすることができる。</p> <p>○登り棒や肋木をしっかりと握り、数を数えながら一定の時間ぶら下がったり、ぶら下がりながら友達とじゃんけんをしたりすることができる。</p> <p>【基本的な動きを組み合わせる運動】</p> <p>○基本的な動きを組み合わせる運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>○物を持ったりかついだりして、バランスをとりながら歩いたり走ったりすることができる。</p> <p>○短なわで跳びながら、歩いたり走ったりすることができる。</p> <p>○フープを回しながら歩いたり走ったり、フープを転がし、転がるフープの中をくぐり抜けたり、跳び越したりすることができる。</p> <p>○ボールを投げ上げ、その場で回ったり移動したりして、投げ上げたボールを落とさないように捕ることができる。</p> <p>○ペアで各々が立てたり回したりしたフープや棒をすばやく相手と場所を入れ替わって捕らえることができる。</p> <p>○回旋する長なわを跳びながら、ボールを捕ったり投げたり、ついたりすることができる。</p>	<p>○体を動かすと心が軽くなることや体の力を抜くと気持ちがよいこと、運動の仕方によって気持ちが変ることなどの気付きや、行ってみて楽しかったことなどを学習カードに書いたり、発表したりしている。</p>	

B 器械運動

◇ 内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
次の運動の行い方を知っているとともに、その技を身に付けている。 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技をしている。 ・鉄棒運動では、支持系の基本的な技をしている。 ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技をしている。	自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。	運動に進んで取り組もうとし、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、友達の考えを認めようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしている。

◇ 単元の評価規準（例）

○：3年の評価規準

●：4年の評価規準

◎：3・4年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【マット運動】 ○マット運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>◆前転（発展技：開脚前転） ○しゃがんだ姿勢から手で支えながら腰を上げ、体を丸めながら後頭部－背中－尻－足裏の順にマットに接して前方に回転して立ち上がることができる。</p> <p>◆易しい場での開脚前転 ○傾斜をつくった場で両手を着き、腰を高く上げながら後頭部をつき前方へ回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、接地するとともに素早く両手を股の近くに置いて膝を伸ばしたまま開脚立ちをすることができる。</p> <p>◆後転 ○しゃがんだ姿勢から体を丸めながら尻－背中－後頭部－足裏の順にマットに接して腰を上げながら後方に回転し、両手で押して立ち上がることができる。</p> <p>◆開脚後転（発展技：伸膝後転） ○しゃがんだ姿勢から体を丸めながら尻－背中－後頭部－足裏の順にマットに接して腰を上げながら後方に回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、両手で押して膝を伸ばしたまま開脚立ちをすることができる。</p> <p>◆補助倒立ブリッジ（発展技：倒立ブリッジ） ○二人組の補助者は、実施者が両手をマットに着いて足を振り上げるときに、実施者の背中に手を当て、ブリッジの姿勢をつくりやすいように支えることができる。</p> <p>◆側方倒立回転（発展技：ロンダート） ○正面を向き、体を前方へ振り下ろしながら片足を振り上げ、前方に片手ずつ着き、腰を伸ばした姿勢で倒立位を経過し、側方回転しながら片足を振り下ろして起き上がることができる。</p> <p>◆首はね起き（発展技：頭はね起き） ○前転を行うように回転し、両肩－背中がマットについたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながらはね起きることができる。</p> <p>◆壁倒立（発展技：補助倒立） ○壁に向かって体を前方に振り下ろしながら片足を振り上げ両手を着き、体を真っ直ぐに伸ばして壁に足をもたれかけて倒立することができる。</p> <p>◆頭倒立 ○頭と両手で三角形をつくるように、両手を肩幅くらいに着き、頭を三角形の頂点になるようについて、腰の位置を倒立に近付けるように上げながら両足をゆっくりと上に伸ばし逆さの姿勢になることができる。</p>	<p>○上手くできたところやできなかったところを、学習カードや掲示物などの連続図に目印や色をつけたり、シールを貼ったりして、自己の能力に適した課題を見付けている。</p> <p>○手の着く位置や着地する位置に目印を置くなどして、技のできばえを視覚的に確認して、自己に適した課題を見付けている。</p> <p>○手の着く位置や着地する位置、目線が向く場所などに目印をして、技のできばえを振り返り、自己の能力に適した課題を解決しやすい練習の場を選んでいる。</p> <p>○つまづいていた技が上手にできた際に、わかったことを言葉で伝えたり、連続図の絵の横に付箋を貼って文字で示したりして伝えている。</p> <p>○友達の手の着く位置や着地する位置、目線が向く場所に目印を置いて、動きのできばえを友達に伝えている。</p>	<p>○回転したり、支持したり、逆位になったりするなど、マット運動や鉄棒運動、跳び箱運動の基本的な技に進んで取り組もうとしている。</p> <p>○マットや跳び箱、踏切り板などの器械・器具の正しい使い方や試技をする前の待ち方、技を観察するときなどのきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。</p> <p>○器械・器具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。</p> <p>○互いの動きを見合ったり補助をし合ったりして、技がうまくできたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。</p> <p>○場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全を確かめたりするとともに、試技の開始前の安全を確かめている。</p>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【鉄棒運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鉄棒運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ◆前回り下り（発展技：前方支持回転） ○支持の姿勢から前方へ上体を大きく振り出して、腰を曲げたまま回転し、両足を揃えて開始した側に着地することができる。 ◆かかえ込み前回り（発展技：前方支持回転） ○支持の姿勢から腰を曲げながら上体を前方へ倒し、手で足を抱え込んで回転することができる。 ◆転向前下り（発展技：片足踏み越し下り） ○前後開脚の支持の姿勢から前に出した足と同じ側の手を逆手に持ちかえ、反対側の手を放しながら後ろの足を前に出し、逆手に持ちかえた手は握ったままで横向きに着地することができる。 ◆膝掛け振り上がり（発展技：膝掛け上がり） ○片膝を鉄棒に掛け、腕を曲げて体を鉄棒に引きつけながら、掛けていない足を前後に大きく振動させ、振動に合わせて前方へ回転し手首を返しながら上がることができる。 ◆前方片膝掛け回転（発展技：前方もも掛け回転） ○逆手で鉄棒を持ち、前後開脚の支持の姿勢から前方へ上体を大きく振り出して、膝を掛けて回転し、手首を返しながら前後開脚の支持の姿勢に戻ることができる。 ◆補助逆上がり（発展技：逆上がり） ○補助や補助具を利用した易しい条件の基で、足の振り上げとともに腕を曲げ上体を後方へ倒し、手首を返して鉄棒に上がることができる。 ◆かかえ込み後ろ回り（発展技：後方支持回転） ○支持の姿勢から腰を曲げながら上体を後方へ倒し、手で足を抱え込んで回転することができる。 ◆後方片膝掛け回転（発展技：後方もも掛け回転） ○前後開脚の支持の姿勢から後方へ上体と後ろ足を大きく振り出し片膝を掛けて回転し、手首を返しながら前後開脚の支持の姿勢に戻ることができる。 ◆両膝掛け倒立下り（発展技：両膝掛け振動下り） ○鉄棒に両膝を掛けた姿勢から両手を放し、その両手を地面に着いて倒立の姿勢になり、指先の方へ手で少し歩いて移動し、両膝を鉄棒から外してつま先から下りることができる。 <p>【跳び箱運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ◆開脚跳び（発展技：かかえ込み跳び） ○助走から両足で踏み切り、足を左右に開いて着手し、跳び越えて着地することができる。 ◆台上前転（発展技：伸膝台上前転） ○助走から両足で踏み切り、腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。 ◆首はね跳び（発展技：頭はね跳び） ○台上前転を行うように回転し、背中が跳び箱についたら腕と腰を伸ばして体を反らせながらはね起ることができる。 		

C 走・跳の運動

◇ 内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を知っていると同時に、その動きを身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かけっこ・リレーでは、調子よく走ったりバトンの受渡しをしたりしている。 ・小型ハードル走では、小型ハードルを調子よく走り越えている。 ・幅跳びでは、短い助走から踏み切って跳んでいる。 ・高跳びでは、短い助走から踏み切って跳んでいる。 	<p>自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動に進んで取り組もうとし、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、友達の考えを認めようとしていたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：3年の評価規準

●：4年の評価規準

◎：3・4年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【かけっこ・リレー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かけっこ・リレーの行い方について、言ったり書いたりしている。 ○いろいろな走り出しの姿勢から、素早く走り始めることができる。 ○真っ直ぐ前を見て、腕を前後に大きく振って走ることができる。 ○走りながら、タイミングよくバトンの受渡しをすることができる。 ○コーナーの内側に体を軽く傾けて走ることができる。 <p>【小型ハードル走】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小型ハードル走の行い方について、言ったり書いたりしている。 ○インターバルの距離や小型ハードルの高さに応じたいろいろなリズムで小型ハードルを走り越えることができる。 ○一定の間隔に並べられた小型ハードルを一定のリズムで走り越えることができる。 <p>【幅跳び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幅跳びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ○5～7歩程度の助走から踏切り足を決めて前方に強く踏み切り、遠くへ跳ぶことができる。 ○膝を柔らかく曲げて、両足で着地することができる。 <p>【高跳び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高跳びの行い方について、言ったり書いたりしている。 ○3～5歩程度の短い助走から踏切り足を決めて上方に強く踏み切り、高く跳ぶことができる。 ○膝を柔らかく曲げて、足から着地することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の走・跳の運動の様子をタブレットやデジタルカメラなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付けている。 ○踏切り位置に輪を置くなど、動きのポイントについて見合ったり教え合ったりしやすくなるような練習の場を選んでいる。 ○個人の記録を得点化してチーム対抗戦をしたり、チームの目標得点を設定して競争したりするなどの規則を選んでいる。 ○活動後に、運動のポイントや友達の動きのよさなどを学習カードなどに記入したり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○かけっこ・リレーや小型ハードル走、幅跳びや高跳びに進んで取り組もうとしている。 ○かけっこやリレーなどのきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ○走・跳の運動で使用する用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ○かけっこやリレーなどの勝敗を受け入れようとしている。 ○小型ハードル走で互いの動きを見合ったり、高跳びで動きのよさや課題を伝え合ったりするなどの際に、友達の考えを認めようとしている。 ○小型ハードル走をする場所や幅跳びをする砂場などの危険物を取り除くとともに、用具の安全を確かめている。

D 水泳運動

◇ 内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を知っているととも、その動きを身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浮いて進む運動では、け伸びや初歩的な泳ぎをしている。 ・もぐる・浮く運動では、息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をしている。 	<p>自己の能力に適した課題を見付け、水の中での動きを身に付けるための活動を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動に進んで取り組もうとし、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、友達の考えを認めようとしていたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：3年の評価規準

●：4年の評価規準

◎：3・4年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【浮いて進む運動】</p> <p>○浮いて進む運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>◆け伸び</p> <p>○け伸びにつながるように、友達に手を引かれたり足を押されたりした勢いを利用して、伏し浮きの姿勢で続けて進むことができる。</p> <p>○プールの底を両足で蹴り、体を一直線に伸ばした姿勢で進んだり、友達の股の下をくぐり抜けたりすることができる。</p> <p>○体を縮めた状態になってプールの壁に両足を揃えてから、力強く両足で蹴り出した勢いで、顎を引いて腕で頭を挟んで体を一直線に伸ばした姿勢で進むことができる。</p> <p>◆初歩的な泳ぎ</p> <p>○補助具を用いて浮き、呼吸をしながら手や足を動かして進む初歩的な泳ぎをすることができる。</p> <p>○補助具を用いて仰向けの姿勢で浮き、呼吸をしながら手や足を動かして進む初歩的な泳ぎをすることができる。</p> <p>○水面に顔を付け、手や足をゆっくりと動かし進むなど、呼吸を伴わない初歩的な泳ぎをすることができる。</p> <p>○ばた足泳ぎやかえる足泳ぎなど、頭の上方に腕を伸ばした姿勢で、手や足をバランスよく動かし、呼吸をしながら進むことができる。</p>	<p>○け伸びや初歩的な泳ぎで進んだ距離、連続ポビングの回数など、自己で決めた距離や回数に挑戦することで、自己の課題を見付けている。</p> <p>○補助具を活用して体を真っ直ぐに伸ばした時間を長くとする練習や、伸びた状態で友達に手を引っ張ってもらう練習など、自己の課題に適した練習の仕方を選んでいる。</p> <p>○陸上で手や足の動かし方と呼吸を合わせた動きをしたり、補助具を用いて体を安定させて手や足の動きと呼吸を合わせたりするなど、自己の課題に適した練習の仕方を選んでいる。</p> <p>○け伸びで進んだ回数をグループで競ったり、連続ポビングでのリレーをしたりするなど、自己の能力に適した競争の仕方を選んでいる。</p>	<p>○け伸びや初歩的な泳ぎをしたり、いろいろなもぐり方や浮き方をしたりするなど、水泳運動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>○け伸びをする際に順番にスタートしたり、決まった場所で友達と練習したりするなど、水泳運動のきまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。</p> <p>○水泳運動の練習で使用する用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。</p> <p>○互いの動きを見合ったり補助をし合ったりするときに見付けた動きのよさや課題について伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。</p>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【もぐる・浮く運動】</p> <p>○もぐる・浮く運動の行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>◆プールの底にタッチ、股くぐり、変身もぐりなどのいろいろなもぐり方</p> <p>○プールの底から足を離して、体の一部分をプールの底につけるようにもぐることができる。</p> <p>○手や足を動かした推進力を利用して、上体からもぐったり、友達の股の下やプールの底に固定した輪の中をくぐり抜けたりすることができる。</p> <p>○座った姿勢でもぐってから大の字の姿勢に変わったり、仰向けの姿勢でもぐってから伏し浮きの姿勢に変わったり、体を回転させたりするなど、水の中で姿勢を変えることができる。</p> <p>◆背浮き、だるま浮き、変身浮きなどのいろいろな浮き方</p> <p>○補助具を抱えたり挟んだりして、浮力を生かしたいろいろな浮き方をすることができる。</p> <p>○大きく息を吸い込み全身の力を抜いて、背浮きやだるま浮きなどのいろいろな浮き方をすることができる。</p> <p>○伏し浮きから大の字浮き、伏し浮きからだるま浮き、背浮きから伏し浮きなど、ゆっくりと浮いた姿勢を変える変身浮きをすることができる。</p> <p>◆だるま浮きやボビングなどを活用した簡単な浮き沈み</p> <p>○息を大きく吸った状態でもぐり体が浮いてくる動きをしたり、浮いた姿勢から息を吐き体が沈んでいく動きをしたりすることができる。</p> <p>○浮いた姿勢から手や足を利用して口を水面上へ出すことができる。</p> <p>○大きく息を吸ってだるま浮きをした状態で、友達に背中を押して沈めてもらい、息を止めてじっとして水面に浮上する動きをすることができる。</p> <p>○ボビングを連続して行ったり、連続したボビングをしながらジャンプをして移動したりすることができる。</p>	<p>○け伸びや初歩的な泳ぎについて見付けた友達のよい動きや課題の解決のための動きのポイントを言葉や動作で伝えている。</p> <p>○自ら試したいろいろなもぐり方や浮き方を友達に紹介したり、互いのよい動きの真似をしたりしている。</p>	<p>○準備運動や整理運動を正しく行う、バディで互いを確認しながら活動する、シャワーを浴びてからゆっくりと水の中に入る、プールに飛び込まないなど、水泳運動の心得を守って安全を確かめている。</p>

E ゲーム

◇ 内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を知っていると同時に、易しいゲームをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをしている。 ・ネット型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをしている。 ・ベースボール型ゲームでは、蹴る、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点をとったり防いだりする動きによって、易しいゲームをしている。 	<p>規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりしているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動に進んで取り組もうとし、規則を守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、友達の考えを認めようとしていたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：3年の評価規準

●：4年の評価規準

◎：3・4年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【ゴール型ゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ハンドボール、ポートボール、ラインサッカー、ミニサッカーなどを基にした易しいゲーム（味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム） ◆タグラグビー、フラッグフットボールなどを基にした易しいゲーム（陣地を取り合うゲーム） <p>○ゴール型ゲームの行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>○ボールを持ったときにゴールに体を向けることができる。</p> <p>○味方にボールを手渡したり、パスを出したり、シュートをしたり、ゴールにボールを持ち込んだりすることができる。</p> <p>○ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動することができる。</p>	<p>○攻めと守りの局面でプレイヤーの人数に違いを設け、攻めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。</p> <p>○少人数のゲームで、ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。</p>	<p>○易しいゴール型ゲーム、ネット型ゲーム、ベースボール型ゲームに進んで取り組もうとしている。</p> <p>○ゲームの規則を守り、誰とでも仲よくしようとしている。</p> <p>○ゲームで使用する用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。</p> <p>○ゲームの勝敗を受け入れようとしている。</p>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【ネット型ゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム ◆プレルボールを基にした易しいゲーム ◆バドミントンやテニスを基にした易しいゲーム ◆天大中小など、子供の遊びを基にした易しいゲーム <p>○ネット型ゲームの行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>○いろいろな高さのボールを片手、両手もしくは用具を使ってはじいたり、打ちつけたりすることができる。</p> <p>○相手コートから飛んできたボールを片手、両手もしくは用具を使って相手コートに返球することができる。</p> <p>○ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。</p> <p>【ベースボール型ゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆攻める側がボールを蹴って行う易しいゲーム ◆手や用具などを使って打ったり、静止したボールを打ったりして行う易しいゲーム <p>○ベースボール型ゲームの行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>○ボールをフェアグラウンド内に蹴ったり打ったりすることができる。</p> <p>○投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げることができる。</p> <p>○向かってくるボールの正面に移動することができる。</p> <p>○ベースに向かって全力で走り、かけ抜けることができる。</p>	<p>○易しいネット型ゲームで、高さの違うボールを片手、両手もしくは用具を使って強さや方向を変えてはじいた工夫を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p> <p>○易しいベースボール型ゲームで、友達の正面に移動する動きのよさを、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p>	<p>○ゲームやそれらの練習の中で互いに動きを見合ったり、話し合ったりして見つけた動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めようとしている。</p> <p>○ゲームやそれらの練習の際に、使用する用具などを片付けて場の危険物を取り除くなど、周囲を見て場や用具の安全を確かめている。</p>

F 表現運動

◇ 内容のまとまりごとの評価規準（例）

○：3年の評価規準

●：4年の評価規準

◎：3・4年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を知っていると同時に、表したい感じを表現したりリズムに乗ったりして踊っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現では、身近な生活などの題材からその主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで踊っている。 ・リズムダンスでは、軽快なリズムに乗って全身で踊っている。 	<p>自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動に進んで取り組もうとし、誰とでも仲よく踊ろうとしていたり、友達の動きや考えを認めようとしていたり、場の安全に気を付けていたりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【表現】 ○表現の行い方について、言ったり書いたりしている。 ◆具体的な生活からの題材 ○その題材の変化する様子を捉えることができる。 ○表したい感じを、動きの質感や形状の変化を付けて誇張したり、二人で対応する動きを繰り返したりしてひと流れの動きで即興的に踊ることができる。 ○表したい感じを中心に、感じの異なる動きや急変する場面などの変化のある動きをつなげて、メリハリ（緩急・強弱）のあるひと流れの動きに工夫して感じを込めて踊ることができる。 ◆空想の世界からの題材 ○多様な場面を捉えたり、その題材ならではのふさわしい動きで特徴を捉えたりすることができる。 ○表したい感じを、動きに差を付けて誇張したり、二人組で対応する動きや対立する動きで変化を付けたりして、ひと流れの動きで即興的に踊ることができる。 ○表したい感じを中心に、感じの異なる動きや急変する場面など変化のある動きをつなげてメリハリ（緩急・強弱）のあるひと流れの動きに工夫して感じを込めて踊ることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○題材やリズムの特徴を知り、自己の能力に合った課題を選んでいる。 ○表現やリズムダンスの動きのポイントを知り、楽しく踊るための自己に合った課題を見付けている。 ○よい動きを知り、友達のよい動きを自己の動きに取り入れている。 ○表したい感じや様子にふさわしい動きで踊っていたかどうかを見合い、特徴を捉えた動きや変化のある動きなどよかったところを友達に伝えている。 ○その時間に見付けた動きや気に入った動きを、みんなで円形などになって一緒に踊りながら伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表したい感じをひと流れの動きで踊ったり、軽快なリズムに乗って全身で踊ったりする運動に進んで取り組もうとしている。 ○表現やリズムダンスに取り組む際に、誰とでも仲よくしようとしている。 ○表現やリズムダンスを行う場の設定や用具の片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ○表現やリズムダンスでの友達の動きや楽しく踊るための友達の考えを認めようとしている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【リズムダンス】</p> <p>○リズムダンスの行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>◆軽快なテンポやビートの強いロックのリズム</p> <p>○へそ（体幹部）を中心にその場で弾んだり、体の各部分でリズムをとったりして即興的に踊ることができる。</p> <p>○動きにアクセントを付けるなどして即興的に踊ることができる。</p> <p>○弾む動きにねじる・回るなどの動きを入れて変化を付けたり、素早い動きやストップなどで曲のリズムに変化を付けたりして続けて即興的に踊ることができる。</p> <p>○二人で向かい合って手をつないだりくぐり抜けたりして自由に関わり合って踊ったり、二人で調子を合わせたりかけ合いをしたりして即興的に踊ることができる。</p> <p>◆陽気で小刻みなビートのサンバのリズム</p> <p>○その場で弾んだり、体の各部分で小刻みにリズムをとったり、へそ（体幹部）を中心に前後左右のスイングなどでリズムに乗ったりして即興的に踊ることができる。</p> <p>○弾む動きにねじる・回るなどの動きを入れて変化を付けたり、素早い動きやストップなどで曲のリズムに変化を付けたりして続けて即興的に踊ることができる。</p> <p>○二、三人の友達と調子を合わせたりかけ合いをしたりして即興的に踊ることができる。</p>		<p>○友達とぶつからないように周りの安全を確かめて踊っている。</p>

G 保健

(1) 健康な生活【3年】

◇ 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていることを理解している。 ・毎日を健康に過ごすには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であることを理解している。 ・毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることなどが必要であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活について、課題を見付け、その解決に向けて考えているとともに、それを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の大切さに気付き、健康な生活についての学習に進んで取り組もうとしている。

◇ 単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆健康な生活</p> <p>①健康の状態には、気持ちが意欲的であること、元気なこと、具合の悪いところがないことなどの心や体の調子がよい状態があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②健康の状態には、1日の生活の仕方などの主体の要因や身の回りの環境の要因が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>◆1日の生活の仕方</p> <p>③健康の保持増進には、1日の生活の仕方が深く関わっており、1日の生活のリズムに合わせて、運動、食事、休養及び睡眠をとることが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④手や足などの清潔、ハンカチや衣服などの清潔を保つことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>◆身の回りの環境</p> <p>⑤健康の保持増進には、生活環境が関わっており、部屋の明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>①1日の生活の仕方などの主体の要因や身の回りの環境の要因から健康に関わる課題を見付けている。</p> <p>②運動、食事、休養及び睡眠、体の清潔、明るさの調節や換気などの学習したことと、自分の生活とを比べたり関連付けたりして、1日の生活の仕方や生活環境を整えるための方法を考えている。</p> <p>③健康な生活について、健康に過ごすために考えた方法を学習カードなどに書いたり、発表したりして伝え合っている。</p>	<p>①健康の大切さに気付き、健康な生活についての学習に進んで取り組もうとしている。</p>

(2) 体の発育・発達【4年】

◇ 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体は、年齢に伴って変化することや体の発育・発達には、個人差があることを理解している。 ・ 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること、また、異性への関心が芽生えることを理解している。 ・ 体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考えているとともに、それを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康の大切さに気付き、体の発育・発達についての学習に進んで取り組もうとしている。

◇ 単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆体の発育・発達</p> <p>①体の発育・成達は、年齢に伴って変化することや個人差があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>◆思春期の体の変化</p> <p>②思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男子はがっしりした体つきに、女子は丸みのある体つきになるなど、男女の特徴が現れることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、また、異性への関心も芽生えることや、これらは個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>◆体をよりよく発育・発達させるための生活</p> <p>④体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、多くの種類の食品をとることができるとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>①身長や体重などの年齢に伴う体の変化や体の発育・成達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。</p> <p>②思春期の体の変化について、学習したことを、自己の体の発育・成達と結び付けて考えている。</p> <p>③体をよりよく発育・発達させるための生活について、学習したことを自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして適切な解決方法を考えている。</p> <p>④体の発育・成達について、自己の発育・成達や体をよりよく発育・発達させるために考えたことを学習カードなどに書いたり、発表したりして伝え合っている。</p>	<p>①健康の大切さに気付き、体の発育・成達についての学習に進んで取り組もうとしている。</p>

【小学校第5学年及び第6学年】

□ 目標と評価の観点及びその趣旨

	(1) 知識及び技能	(2) 思考力, 判断力, 表現力等	(3) 学びに向かう力, 人間性等
目標	各種の運動の楽しさや喜びを味わい, その行い方及び心の健康やけがの防止, 病気の予防について理解するとともに, 各種の運動の特性に応じた基本的な技能及び健康で安全な生活を営むための技能を身に付けるようにする。	自己やグループの運動の課題や身近な健康に関わる課題を見付け, その解決のための方法や活動を工夫するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	各種の運動に積極的に取り組み, 約束を守り助け合って運動をしたり, 仲間の考えや取組を認めたり, 場や用具の安全に留意したりし, 自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また, 健康・安全の大切さに気付き, 自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組む態度を養う。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	各種の運動の行い方について理解しているとともに, 各種の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また, 心の健康やけがの防止, 病気の予防について理解しているとともに, 健康で安全な生活を営むための技能を身に付けている。	自己やグループの運動の課題を見付け, その解決のための活動を工夫しているとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。また, 身近な健康に関する課題を見付け, その解決のための方法や活動を工夫しているとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう, 各種の運動に積極的に取り組もうとしている。また, 健康・安全の大切さに気付き, 自己の健康の保持増進や回復についての学習に進んで取り組もうとしている。

□ 評価規準

以下に示す「単元の評価規準(例)」は, 第5学年及び第6学年全てのものであることから, 学校においては, 実際の指導計画をもとに, 指導・評価する時期を確認し, 選別して, 自校の「単元の評価規準」を作成する。

A 体づくり運動

◇ 内容のまとまりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
次の運動の行い方を理解しているとともに, 体を動かす心地よさを味わったり, 体の動きを高めたりしている。 ・体の動きを高める運動では, ねらいに応じて, 体の柔らかさ, 巧みな動き, 力強い動き, 動きを持続する能力を高めるための運動をしている。	自己の体の状態や体力に応じて, 運動の行い方を工夫しているとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動に積極的に取り組もうとし, 約束を守り助け合って運動をしようとしていたり, 仲間の考えや取組を認めようとしていたり, 場や用具の安全に気を配ったりしている。
※ 「体ほぐしの運動」については, 技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないことから, 技能の観点から削除している。		

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【体の柔らかさを高めるための運動】 ○体の柔らかさを高めるための運動の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。</p> <p>◆徒手での運動 ○体の各部位を大きく広げたり曲げたりする姿勢を維持することができる。 ○全身や各部位を振ったり、回したり、ねじったりすることができる。 ○向かい合って手をつなぎ、手を離さないで背中合わせになったり、足裏を合わせて座り、交互に引っ張り合って上体を前屈したり、背中を押してもらい前屈をしたりすることができる。</p> <p>◆用具などを用いた運動 ○ゴムひもを張りめぐらせてつくった空間や、棒の下や輪の中をくぐり抜けることができる。 ○長座の姿勢で上体を曲げ、体の周りでボールを転がすことができる。 ○短なわを短く折り曲げて両手で持ち、足の下・背中・頭上・腹部を通過させることができる。</p> <p>【巧みな動きを高めるための運動】 ○巧みな動きを高めるための運動の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。</p> <p>◆人や物の動き、場の状況に対応した運動 ○馬跳びで跳んだり、馬の下をくぐったりすることができる。 ○長座の姿勢で座り、足を開いたり閉じたりする相手の動きに応じ、開脚・閉脚を繰り返しながら跳ぶことができる。 ○グループで一列に並んだり、円陣や二列縦隊で手をつないだりして、呼吸を合わせて一斉に前後左右に跳んだり、音楽に合わせてリズムを変えながら跳んだりすることができる。 ○用具などを等間隔に並べた走路や、ゴムひもなどでつくった「くもの巣」、跳び箱や平均台などの器具で作った段差のある走路などをリズムカルに走ったり跳んだりすることができる。 ○マーカーをタッチしながら、素早く往復走をすることができる。</p>	<p>○これまでに経験した運動の中から心と体との関係に気付いたり、仲間と関わり合ったりするなどのねらいに応じた活動を選んでいる。</p> <p>○自己の体力の状況を知ったり、体の様々な動きを試したりすることを通して、体の動きを高めるためにどのような運動に取り組むとよいか、自己の課題を見付けている。</p> <p>○複数の運動を試して行い、比べてみることを通して、気付きや関わり合いが深まりやすい運動を選んでいる。</p> <p>○体の柔らかさを高めるために、長座の姿勢で体の周囲を転がすボールの大きさを変えたり、操作の仕方を変えたりして、自己に合った運動の行い方を選んでいる。</p> <p>○短なわ跳びを一定時間続けるために、動きを見合ったり、体の状態を確かめたりしながら、自己に合った回数や時間を選んでいる。</p> <p>○ICT機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫している。</p>	<p>○体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>○運動を行う際の約束を守り、仲間と助け合おうとしている。</p> <p>○運動を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。</p> <p>○運動の行い方について仲間の気付きや考え、取組のよさを認めようとしている。</p> <p>○運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。</p>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆用具などを用いた運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○短なわや長なわを用いて回旋の仕方や跳ぶリズム、人数などを変えていろいろな跳び方をしたり、なわ跳びをしながらボールを操作したりすることができる。 ○投げ上げたボールを姿勢や位置を変えて捕球することができる。 ○用具をコントロールしながら投げる、捕る、回す、転がすなどの操作をすることができる。 ○フープを転がし、回転しているフープの中をくぐり抜けたり、跳び越したりすることができる。 ○跳び箱、平均台、輪などの器具やゴムひもなどの用具を用いて設定した変化のあるコースで、物を持ったり姿勢や速さを変えたりして移動することができる。 <p>【力強い動きを高めるための運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○力強い動きを高めるための運動の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 <p>◆人や物の重さなどを用いた運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな姿勢での腕立て伏臥腕屈伸をすることができる。 ○二人組、三人組で互いに持ち上げる、運ぶなどの運動をすることができる。 ○押し、寄りをを用いてすもうをすることができる。 ○全身に力を込めて登り棒につかまったり、肋木や雲梯にぶら下がったりすることができる。 <p>【動きを持続する能力を高めるための運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○動きを持続する能力を高めるための運動の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 <p>◆時間やコースを決めて行う全身運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○短なわ、長なわを用いての跳躍やエアロビクスなどの全身運動を続けることができる。 ○無理のない速さで5～6分程度の持久走をすることができる。 ○一定のコースに置かれた固定施設、器械・器具、変化のある地形などを越えながらかけ足で移動するなどの運動を続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動を行うと心と体が軽やかになったことやみんなでリズムに乗って運動をすると楽しさが増したことを学習カードに書いたり、振り返りの時間に発表したりしている。 ○グループで工夫した長なわ跳びをしながらボールを投げたり捕ったりする運動の行い方を他のグループの仲間に例示して見せたり、言葉で伝えたりしている。 ○活動後の感想を伝える場面で、言葉のかけ方や並び方などの条件を工夫することで、グループのみんなが楽しく運動が行えたことを他のグループに説明している。 	

B 器械運動

◇ 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を理解しているとともに、その技を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりしている。 ・鉄棒運動では、支持系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりしている。 ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりしている。 	<p>自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>運動に積極的に取り組もうとし、約束を守り助け合って運動をしようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：5年の評価規準

●：6年の評価規準

◎：5・6年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【マット運動】</p> <p>○マット運動の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。</p> <p><回転系 接転技群 前転グループ発展技></p> <p>◆開脚前転（更なる発展技：易しい場での伸膝前転）</p> <p>○両手と後頭部をつきながら腰を高く上げ前方へ回転し、膝を伸ばして足を左右に大きく開き、接地するとともに素早く両手を股の近くに置いて膝を伸ばしたまま開脚立ちをすることができる。</p> <p>◆補助倒立前転（更なる発展技：倒立前転、跳び前転）</p> <p>○片足を振り上げ補助倒立を行い、前に倒れながら腕を曲げ、頭を入れて前転することができる。</p> <p><回転系 接転技群 後転グループ発展技></p> <p>◆伸膝後転（更なる発展技：後転倒立）</p> <p>○直立の姿勢から前屈しながら後方へ倒れ、尻をつき、膝を伸ばして後方に回転し、両手でマットを押して膝を伸ばしたまま立ち上がることができる。</p> <p><回転系 ほん転技群 倒立回転グループ発展技></p> <p>◆倒立ブリッジ（更なる発展技：前方倒立回転、前方倒立回転跳び）</p> <p>○倒立位から前方へ体を反らせ、ゆっくりと足を下ろしながらブリッジの姿勢をつくることができる。</p>	<p>○タブレットやデジタルカメラなどのICT機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、技のできばえや次の課題を確認するなど、自己の課題を見付けている。</p> <p>○見付けた課題を解決するために、複数の場の中から自己の課題に適した練習の場を選んでいる。</p> <p>○グループの中で互いの役割を決めて観察し合ったり、学習カードやICT機器を活用したりして、つまずいていた技や演技のこつやわかかったことを、文字や図で書いたり、映像を活用して発表したりするなどして、仲間やグループに伝えている。</p>	<p>○膝を伸ばして回転したり、体を真っ直ぐ伸ばして逆さの姿勢になったり、それらの技を組み合わせたりするなど、マット運動、鉄棒運動及び跳び箱運動の基本的な技や発展技に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>○互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。</p> <p>○器械・器具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。</p>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆ロンダート</p> <p>○助走からホップを行い、片足を振り上げながら片手ずつ着き、体を1/2ひねり両足を真上で揃え、両手で押しながら両足を振り下ろし、空中で回転して立ち上がることができる。</p> <p>◆頭はね起き</p> <p>○両手で支えて頭頂部について屈身の姿勢の頭倒立を行いながら前方に回転し、尻が頭を越えたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながらはね起きることができる。</p> <p><巧技系 平均立ち技群 倒立グループ発展技></p> <p>◆補助倒立（更なる発展技：倒立）</p> <p>○体を前方に振り下ろしながら片足を振り上げ両手を着き、体を真っ直ぐに伸ばして逆さの姿勢になり、補助者の支えて倒立することができる。</p> <p><技の組み合わせ方></p> <p>○例示の技や既にてできる技を選び、それらにバランスやジャンプなどを加えているような技群やグループ技で組み合わせたり、本来の終末の姿勢とは異なるように条件を変えて技を組み合わせたりすることができる。</p> <p>○ペアやグループで動きを組み合わせる演技をつくったりすることができる。</p> <p>【鉄棒運動】</p> <p>○鉄棒運動の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。</p> <p><支持系 前方支持回転技群 前転グループ発展技></p> <p>◆前方支持回転（更なる発展技：前方伸膝支持回転）</p> <p>○支持の姿勢から腰と膝を曲げ、体を前方に勢いよく倒して腹を掛けて回転し、その勢いを利用して手首を返ししながら支持の姿勢に戻ることができる。</p> <p>◆片足踏み越し下り（更なる発展技：横とび越し下り）</p> <p>○片逆手の支持の姿勢から順手側の手の近くに足を鉄棒に乗せ、踏み込みながら順手を離し、逆手握りの手は鉄棒を握ったままで横向きに下りることができる。</p> <p><支持系 前方支持回転技群 前方足掛け回転グループ発展技></p> <p>◆膝掛け上がり（更なる発展技：もも掛け上がり）</p> <p>○鉄棒の下を走り込み、両足を振り上げ、振れ戻りながら片膝を掛けて手首を返ししながら上がることができる。</p> <p>◆前方もも掛け回転</p> <p>○逆手で鉄棒を持ち、前後開脚の支持の姿勢から前方へ上体を大きく振り出して、足を伸ばし鉄棒を挟むように回転し、手首を返しながらかももを掛けて前後開脚の支持の姿勢に戻ることができる。</p>		<p>○技や演技を行うなかでわかったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。</p> <p>○けがのないように、互いの服装や髪形に気を付けたり、場の危険物を取り除いたりするとともに、試技の前後などに器械・器具の安全に気を配っている。</p>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><支持系 後方支持回転技群 後転グループ発展技> ◆逆上がり ○足の振り上げとともに腕を曲げ、上体を後方へ倒し手首を返して鉄棒に上がることができる。</p> <p>◆後方支持回転（更なる発展技：後方伸膝支持回転） ○支持の姿勢から腰と膝を曲げたまま体を後方に勢いよく倒し、腹を鉄棒に掛けたまま回転し、手首を返して支持の姿勢に戻ることができる。</p> <p><支持系 後方支持回転技群 後方足掛け回転グループ発展技> ◆後方もも掛け回転 ○前後開脚の支持の姿勢から後方に上体と後ろ足を大きく振り出し、ももを掛けて回転し手首を返ししながら前後開脚の支持の姿勢に戻ることができる。</p> <p>◆両膝掛け振動下り ○鉄棒に両膝を掛けて逆さまになり両手を離し、腕と頭を使って体を前後に振動させ、振動が前から後ろに振れ戻る前に膝を鉄棒から外して下りることができる。</p> <p><技の組み合わせ方> ○中学年までの基本的な技や上に示した技の中から、自己の能力に適した技を選んで組み合わせることができる。</p> <p>【跳び箱運動】 ○跳び箱運動の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。</p> <p><切り返し系 切り返し跳びグループ発展技> ◆かかえ込み跳び（更なる発展技：屈身跳び） ○助走から両足で踏み切って着手し、足をかかえ込んで跳び越し着地することができる。</p> <p><回転系 回転跳びグループ発展技> ◆伸膝台上前転 ○助走から両足で強く踏み切り、足を伸ばしたまま腰の位置を高く保って着手し、前方に回転して着地することができる。</p> <p>◆頭はね跳び（更なる発展技：前方屈腕倒立回転跳び） ○伸膝台上前転を行うように腰を上げ回転し、両手で支えながら頭頂部をつき、尻が頭を越えたら腕と腰を伸ばし、体を反らせながら回転することができる。</p>		

C 陸上運動

◇ 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を理解しているとともに、その技能を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短距離走・リレーでは、一定の距離を全力で走ったり、滑らかなバトンの受渡しをしたりしている。 ・ハードル走では、ハードルをリズムカルに走り越えている。 ・走り幅跳びでは、リズムカルな助走から踏み切って跳んでいる。 ・走り高跳びでは、リズムカルな助走から踏み切って跳んでいる。 	<p>自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>運動に積極的に取り組もうとし、約束を守り助け合って運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：5年の評価規準

●：6年の評価規準

◎：5・6年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【短距離走・リレー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○短距離走・リレーの行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 ○スタンディングスタートから、素早く走り始めることができる。 ○体を軽く前傾させて全力で走ることができる。 ○テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンの受渡しをすることができる。 <p>【ハードル走】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ハードル走の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 ○第1ハードルを決めた足で踏み切って走り越えることができる。 ○スタートから最後まで、体のバランスをとりながら真っ直ぐ走ることができる。 ○インターバルを3歩または5歩で走ることができる。 <p>【走り幅跳び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○走り幅跳びの行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 ○7～9歩程度のリズムカルな助走をすることができる。 ○幅30～40cm程度の踏切りゾーンで力強く踏み切ることができる。 ○かがみ跳びから両足で着地することができる。 <p>【走り高跳び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○走り高跳びの行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 ○5～7歩程度のリズムカルな助走をすることができる。 ○上体を起こして力強く踏み切ることができる。 ○はさみ跳びで、足から着地することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己や仲間の走りや跳び方の様子をタブレットやデジタルカメラなどのICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己やグループの課題を見付け、自己に適した練習方法を選んでいく。 ○ハードル走のインターバルを選ぶなど、自己の課題に適した練習の場を選んでいく。 ○リレーで、チーム対抗戦に向けて自己のチームに適した作戦（レーンや走順など）を選んでいく。 ○活動後に、運動のポイント、学習の記録、仲間の動きのよさなどを学習カードに書いたり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短距離走・リレーやハードル走、走り幅跳びや走り高跳びに積極的に取り組もうとしている。 ○短距離走やリレーなどの約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ○陸上運動をするときに用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たそうとしている。 ○短距離やリレーなどの勝敗を受け入れようとしている。 ○課題を見付けたり、その解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ○短距離走の場の危険物を取り除いたり、走り高跳びの場を整備したりするとともに、用具の安全に気を配っている。

D 水泳運動

◇ 内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を理解しているとともに、その技能を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロールでは、手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳いでいる。 ・平泳ぎでは、手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳いでいる。 ・安全確保につながる運動では、背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮いている。 	<p>自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>運動に積極的に取り組もうとし、約束を守り助け合って運動をしようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、水泳運動の心得を守って安全に気を配ったりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：5年の評価規準

●：6年の評価規準

◎：5・6年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【クロール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クロールの行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 ○手を左右交互に前方に伸ばして水に入れ、水を大きくかくことができる。 ○柔らかく足を交互に曲げたり伸ばしたりして、リズムカルなばた足をするることができる。 ○肩のローリングを用い、体を左右に傾けながら顔を横に上げて呼吸をすることができる。 ○1ストロークで進む距離が伸びるように、頭の上方で両手を揃えた姿勢で、片手ずつ大きく水をかくことができる。 ○1ストロークで進む距離が伸びるように、ゆっくりと動かすばた足をするることができる。 ○呼吸する側の手をかく動きに合わせて、呼吸をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードや掲示物などを活用し、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせて自己の課題を見付けている。 ○クロールや平泳ぎで進んだ距離や、浮き沈みの回数、背浮きの時間など、自分で決めた距離や回数、時間に挑戦することで、自己の課題を見付けている。 ○口伴奏で呼吸のタイミングを確かめたり、補助具の種類や練習場所を選んだりするなど、自己の課題に応じた練習の場や仕方を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水泳運動が自己保全のために必要であることを生かし、クロールや平泳ぎをしたり、背浮きや浮き沈みをしたりするなどの水泳運動に積極的に取り組もうとしている。 ○自己や仲間の課題を解決するための練習では、練習場所やレーンの使い方、補助の仕方などの約束を守り、仲間と助け合おうとしている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【平泳ぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平泳ぎの行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 ○両手を前方に伸ばし、ひじを曲げながら円を描くように左右に開き、水をかくことができる。 ○足の親指を外側に開いて左右の足の裏や脚の内側で水を挟み出すとともに、キックの後に伸びの姿勢を保つことができる。 ○手を左右に開き水をかきながら、顔を前に上げ呼吸をすることができる。 ○伸びた姿勢から顔を前方にゆっくりと起こしながら手をかきはじめ、肘を曲げながら顔を上げ呼吸した後、キックをした勢いを利用して伸びることができる。 ○1ストロークで進む距離が伸びるように、キックの後に顎を引いた伏し浮きの姿勢を保つことができる。 ○キックの勢いをしっかり利用するようにゆっくりと手をかくことができる。 <p>【安全確保につながる運動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全確保につながる運動の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 ○顔以外の部位がしっかりと水中に入った背浮きの姿勢を維持することができる。 ○息を一度に吐き出し呼吸することができる。 ○背浮きの姿勢を崩さないように、手や足をゆっくりと動かすことができる。 ○大きく息を吸ってだるま浮きをした状態で、仲間に背中を押して沈めてもらい、息を止めてじっとして水面に浮上する浮き沈みを続けることができる。 ○浮いてくる動きに合わせて両手を動かし、顔を上げて呼吸をした後、再び沈み、息を止めて浮いてくるまで姿勢を保つ浮き沈みを続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用して、課題や解決のための動きのポイントを仲間と確認し、自己の課題に応じた練習の仕方を選んでいる。 ○自ら選んだ泳ぎ方（クロールや平泳ぎ）で続けて長く泳いだり、決まった距離でのストローク数に挑戦をしたりするなど、自己や仲間の能力に応じた記録への挑戦の仕方を選んでいる。 ○ペアやグループで陸上や水中から役割を決めて互いの動きを見合ったり、互いの練習の補助をし合ったりすることを通して、見付けた動きのポイントや自己や仲間の課題に適した練習方法を伝えている。 ○自己や仲間の手や足の動きや呼吸の合わせ方のよさを仲間同士で確かめ合ったり称賛し合ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水泳運動で使用する用具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ○課題を見付けたり、解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ○プールの底・水面などに危険物がないかを確認したり、自己の体の調子を確認してから泳いだり、仲間の体の調子にも気を付けるなど、水泳運動の心得を守って安全に気を配っている。

E ボール運動

◇ 内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を理解しているとともに、その技能を身に付け、簡易化されたゲームをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型では、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをしている。 ・ネット型では、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをしている。 ・ベースボール型では、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをしている。 	<p>ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりしているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>運動に積極的に取り組もうとし、ルールを守り助け合って運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、仲間の考えや取組を認めようとしていたり、場や用具の安全に気を配ったりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：5年の評価規準

●：6年の評価規準

◎：5・6年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【ゴール型】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆バスケットボール、サッカー、ハンドボールなどを基にした簡易化されたゲーム（攻守が入り交じって行うゴール型） ◆タグラグビーやフラッグフットボールを基にした簡易化されたゲーム（陣地を取り合うゴール型） <p>○ゴール型の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。</p> <p>○近くにいるフリーの味方にパスを出すことができる。</p> <p>○相手に捕られない位置でドリブルをすることができる。</p> <p>○ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動することができる。</p> <p>○得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートなどを行うことができる。</p> <p>○ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。</p>	<p>○攻守に応じて動くことができる範囲を設けてプレイの制限をするなどのルールを選んでいる。</p> <p>○チームの特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認している。</p> <p>○簡易化されたネット型のゲームで、自己や仲間が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って、他者に伝えている。</p>	<p>○ゴール型、ネット型、ベースボール型の簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>○ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。</p> <p>○ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。</p> <p>○ゲームの勝敗を受け入れようとしている。</p>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【ネット型】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ソフトバレーボールやプレルボールを基にした簡易化されたゲーム ◆バドミントンやテニスを基にした簡易化されたゲーム ○ネット型の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 ○自陣のコート（中央付近）から相手コートに向けサービスを打ち入れることができる。 ○ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。 ○味方が受けやすいようにボールをつなぐことができる。 ○片手、両手もしくは用具を使って、相手コートにボールを打ち返すことができる。 <p>【ベースボール型】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ソフトボールを基にした簡易化されたゲーム ◆ティーボールを基にした簡易化されたゲーム ○ベースボール型の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 ○止まったボールや易しく投げられたボールをバットでフェアグラウンド内に打つことができる。 ○打球方向に移動し、捕球することができる。 ○捕球する相手に向かって、投げることができる。 ○塁間を全力で走塁することができる。 ○守備の隊形をとって得点を与えないようにすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡易化されたベースボール型のゲームで、自チームや相手チームの守備位置のよさについて、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って、他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ○ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。

F 表現運動

◇ 内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>次の運動の行い方を理解しているとともに、表したい感じを表現したり踊りで交流したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現では、いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりしている。 ・フォークダンスでは、日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊っている。 	<p>自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>運動に積極的に取り組もうとし、互いのよさを認め合い助け合って踊ろうとしていたり、場の安全に気を配ったりしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

○：5年の評価規準

●：6年の評価規準

◎：5・6年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○表現の行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。 ◆激しい感じの題材、群（集団）が生きる題材 ○題材から動きの変化や起伏の特徴を捉え、そこに感情の変化や起伏を重ねることができる。 ○激しい感じや急変する感じをメリハリ（緩急・強弱）のあるひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。 ○表したい感じやイメージにふさわしい簡単な群の動きでひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。 ○表したい感じやイメージを強調するように、変化と起伏のある「はじめ－なか－おわり」の構成や群の動きを工夫して、仲間と感じを込めて通して踊ることができる。 ◆多様な題材 ○社会の出来事や何気ない日常生活の中から個人やグループで関心のある印象的な出来事を独自に捉えることができる。 ○表したい感じやイメージを、差のある動きや急変する動きを入れるなどして、変化とメリハリ（緩急・強弱）のあるひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。 ○表したい感じやイメージを強調するように「はじめ－なか－おわり」の構成や群の動きを工夫したり、特にラストシーンを印象的にしたりして、個人やグループの持ち味を生かした簡単なひとまとまりの動きにして、仲間と感じを込めて通して踊ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表したい感じやイメージが表れているか、踊りの特徴を捉えて踊れているかなど、グループの仲間や他のグループの踊りを見て、自己やグループの課題を見付けている。 ○「表したい感じやイメージを強調する」という課題に応じて、素早く－ゆっくり、ねじる－回る、跳ぶ－転がるなどの差のある動きや群の動きなどで変化を付ける方法を選んでいる。 ○「表したい感じやイメージが伝わりにくい」という課題に応じて、「はじめ－なか－おわり」で一番盛り上げたい場面を明確にし、急変する場面や取り入れる群の動きを選んでいる。 ○表したい感じやイメージが表れているか、踊りの特徴を捉えているかなどを確かめるために、ペアのグループやクラス全体で見合ったり、一緒に踊って見合いながら交流したりするなどの工夫を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表したい感じやイメージを表現したり、日本の民踊や外国のフォークダンスで交流したりする運動に積極的に取り組もうとしている。 ○表現やフォークダンスに取り組む際に、互いの動きや考えのよさを認め合おうとしている。 ○表現やフォークダンスにグループで取り組む際に、仲間と助け合おうとしている。 ○表現やフォークダンスを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ○活動する場所の危険物を取り除くとともに、仲間とぶつからないよう、場の安全に気を配っている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【フォークダンス（日本の民踊を含む）】</p> <p>○フォークダンスの行い方について理解したことを、言ったり書いたりしている。</p> <p>◆日本の民踊</p> <p>○日本の民踊に共通する特徴やそれぞれの踊り方の特徴を捉え、構成された基本的な踊り方を身に付けて踊ることができる。</p> <p>○阿波踊り（徳島県）や春駒（岐阜県）などの軽快なリズムの踊りでは、軽快な足さばきや手振りで踊ることができる。</p> <p>○ソーラン節（北海道）やエイサー（沖縄県）などの力強い踊りでは、低く踏みしめるような足取りや腰の動きで踊ることができる。</p> <p>◆外国のフォークダンス</p> <p>○マイム・マイム（イスラエル）などのシングルサークルで踊る力強い踊りでは、みんなで手をつなぎ、かけ声をかけて力強くステップを踏みながら移動して踊ることができる。</p> <p>○コロブチカ（ロシア）などのパートナーチェンジのある軽快な踊りでは、パートナーと組んでスリーステップターンなどの軽快なステップで動きを合わせたり、パートナーチェンジをスムーズに行ったりしながら踊ることができる。</p> <p>○グスタフス・スコール（スウェーデン）などの特徴的な隊形と構成の踊りでは、前半の厳かな挨拶の部分と後半の軽快なスキップやアーチくぐりなどの変化を付けて、パートナーや全体でスムーズに隊形移動しながら踊ることができる。</p>	<p>○表したい感じやイメージにふさわしい動きになっているかをペアのグループやクラス全体で見合い、よくなったところを伝えている。</p> <p>○ペアのグループやクラス全体で踊り、踊りの特徴が出ているかを伝えている。</p>	

G 保健

(1) 心の健康【5年】

◇ 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達することを理解している。 ・心と体には、密接な関係があることを理解している。 ・不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があることを理解しているとともに、技能を身に付けている。 	<p>心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。</p>	<p>健康・安全の大切さに気付き、心の健康についての学習に進んで取り組もうとしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆心の発達</p> <p>①心は人との関わり、あるいは自然とのふれあいなど様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>◆心と体との密接な関係</p> <p>②不安や緊張時には、動悸が激しくなったり、腹痛を起こしたりすること、体調が悪いときには、集中できなかつたり、落ち込んだ気持ちになつたり、体調がよいときには、気持ちが明るくなつたり、集中できるようになつたりすることなど、心と体は深く影響し合っていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>◆不安や悩みへの対処</p> <p>③不安や悩みがあるということは誰もが経験することであり、そうした場合には、家族や先生、友達などと話したり、相談したりすること、仲間と遊ぶこと、運動をしたり音楽を聴いたりすること、呼吸法を行うなどによって気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④不安や悩みへの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などを行うことができる。</p>	<p>①心の発達に関する事柄や、不安や悩みの経験から、心の健康に関わる課題を見付けている。</p> <p>②心の発達や心と体の関わりについて、自己の経験と学習したことを関連付けて、よりよく心を発達させる適切な方法や心と体の関わりについて考えている。</p> <p>③不安や悩みに対処する様々な方法を考え、学習したことを活用して、適切な方法を選んでいる。</p> <p>④心の健康について、考えたり選んだりした方法がなぜ適切なのか、理由をあげて学習カードなどに書いたり、友達に説明したりしている。</p>	<p>①健康や安全の大切さに気付き、心の健康についての学習に進んで取り組もうとしている。</p>

(2) けがの防止【5年】

◇ 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることを理解している。 ・けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があることを理解しているとともに技能を身に付けている。 	<p>けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。</p>	<p>健康や安全の大切さに気付き、けがの防止についての学習に進んで取り組もうとしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止</p> <p>①毎年多くの交通事故や水の事故が発生し、けがをする人や死亡する人が少ないこと、また、学校生活での事故や、犯罪被害が発生していること、これらの事故や犯罪、それらが原因となるけがなどは、人の行動や環境が関わって発生していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがを防止するためには、周囲の状況をよく見極め、危険に早く気付いて、的確な判断の下に安全に行動することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③交通事故、水の事故、学校生活の事故、犯罪被害の防止には、危険な場所の点検などを通して、校舎や遊具など施設・設備を安全に整えるなど、安全な環境をつくることが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>◆けがの手当</p> <p>④けがの悪化を防ぐ対処として、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置すること、近くの大人に知らせることが大切であること、自らできる簡単な手当には、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの方法があること、また、その行い方について、理解したことを言ったり書いたりしている</p> <p>⑤簡単な手当ができる。</p>	<p>①人の行動や環境、けがの手当の仕方などから、けがや症状の悪化の防止に関わる課題を見付けている。</p> <p>②自分のけがに関わる経験を振り返ったり、学習したことを活用したりして、危険の予測や回避の方法、けがなどの適切な手当の方法を考えたり、選んだりしている。</p> <p>③けがの防止について、けがや症状の悪化の防止のために考えたり、選んだりした方法がなぜ適切であるか、理由をあげて学習カードなどに書いたり、友達に説明したりしている。</p>	<p>①健康や安全の大切さに気付き、けがの防止についての学習に、進んで取り組もうとしている。</p>

(3) 病気の予防【6年】

◇ 内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わりあって起こることを理解している。 ・ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入ることを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であることを理解している。 ・ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があることを理解している。 ・ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となることを理解している。 ・ 地域では、保健に関わる様々な活動が行われていることを理解している。 	<p>病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。</p>	<p>健康や安全の大切さに気付き、病気の予防についての学習に進んで取り組もうとしている。</p>

◇ 単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆ 病気の起こり方</p> <p>① 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などが関わりあって起こることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>◆ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防</p> <p>② 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体の発生源をなくしたり、移る道筋を断ち切ったりして病原体が体に入るのを防ぐこと、また、体の抵抗力を高めておくことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>◆ 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防</p> <p>③ 生活行動が主な要因となって起こる病気として、心臓や脳の血管が硬くなったりつまったりする病気、むし歯や歯ぐきの病気などを適宜取り上げ、その予防には、全身を使った運動を日常的に行うこと、糖分、脂肪分、塩分などを摂りすぎる偏った食事や間食を避けたり、口腔の衛生を保ったりすることなど、健康によい生活習慣を身に付ける必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>① 病気の予防について、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境などの要因から課題を見付けている。</p> <p>② 病気の予防や回復に関する課題について、学習したことを活用して解決の方法を考えたり、選んでいる。</p> <p>③ いくつかの病気の要因や起こり方を比べて、それぞれの病気に応じた予防の方法を選んでいる。</p> <p>④ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、それらの害や体への影響を考えたり、地域の様々な保健活動の取組の中から人々の病気を予防するための取組を選んだりしている。</p>	<p>① 健康や安全の大切さに気付き、病気の予防についての学習に進んで取り組もうとしている。</p>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>◆喫煙，飲酒，薬物乱用と健康</p> <p>④喫煙は，呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること，受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすことや，喫煙を長い間続けるとがんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについて，理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑤飲酒については，判断力が鈍る，呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響がすぐに現れることや，飲酒を長い間続けると肝臓などの病気の原因になるなどの影響があること，低年齢からの喫煙や飲酒は特に害が大きいことや未成年の喫煙や飲酒は法律によって禁止されていること，好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙や飲酒を開始する場合があることについて，理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>⑥薬物乱用については，一回の乱用でも死に至ることがあり，乱用を続けると止められなくなり，心身の健康に深刻な影響を及ぼすことや，覚醒剤を含む薬物乱用は法律で厳しく規制されていることについて，理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>◆地域の様々な保健活動の取組</p> <p>⑦人々の病気を予防するために，保健所や保健センターなどでは，健康な生活習慣に関わる情報提供や予防接種などの活動が行われていることについて，理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>⑤病気の予防について，病気の予防や回復のために考えたり，選んだりした方法がなぜ適切であるか，理由をあげて学習カードなどに書いたり，友達に説明したりしている。</p>	